

新河岸川及び白子川河川整備計画の概要

新河岸川及び白子川とは

新河岸川は、狭山丘陵を最上流に持ち、川越市など埼玉県南部から途中、柳瀬川や黒目川、白子川などの支流を集めて東京都板橋区を流下し、北区志茂で隅田川に合流する一級河川です。東京都区間の流路延長は9.3kmです。

白子川は、東京都練馬区東大泉の七福橋を起点として、埼玉県和光市内に入ってから板橋区との都県境に沿って流下し、板橋区三園で新河岸川に合流する一級河川です。東京都区間の流路延長は8.5kmです。



白子川:板橋区三園付近



白子川:未整備区間(大泉学園町付近)



新河岸川:板橋区船渡付近

流域の特徴

新河岸川流域及び白子川流域ともに、昭和30年頃から市街化が進展してきました。

昭和57年9月12日の台風18号では、溢水等により905棟の甚大な被害が出ています。また、近年では、集中豪雨により平成17年9月4日に159棟、平成22年7月5日に白子川流域で52棟の被害が出ています。



新河岸川西台橋付近の増水(平成 3年9月19日)



白子川成増橋付近の増水(昭和57年9月12日)

河川整備の目標

新河岸川及び白子川は、洪水や地震に対する安全性を確保するとともに、自然環境や河川水質の保全など、河川環境の向上に努めた川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、東京都管理区間の新河岸川及び白子川(埼玉県施行区間を除く)で、計画対象期間は概ね30年を目標とします。

河川整備計画の主なポイント

治水

・・・洪水、地震等による災害発生の防止又は軽減

白子川は、1時間あたり50mm規模の降雨に対応できる河道に加え、洪水を貯める調節池を整備します。河川への流出を抑制する流域対策も含めて、1時間あたり75mm規模の降雨に対応することを目標とします。

新河岸川は、昭和57年9月の実績豪雨(2日間あたり245.7mm)規模により生じる洪水に対して安全であることを目標とします。また、将来にわたって考えられる最大級の強さをもつ地震に対しても安全性が確保されるよう、防潮堤の耐震対策を実施しています。



白子川比丘尼下流調節池（既存）

環境

・・・生物の生息、生育の場となる河川環境の創出

生物の多様な生息・生育空間の確保や良好な河川景観・親水空間の保全・創出などを目指していきます。



新河岸川の緩傾斜護岸（荒川赤羽桜堤緑地）



白子川：練馬区東大泉付近(親水整備区間)

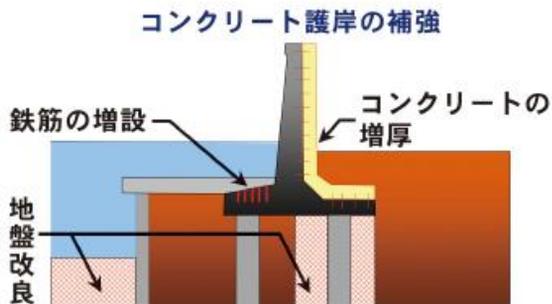
河川整備計画の主な変更ポイント

変更の背景

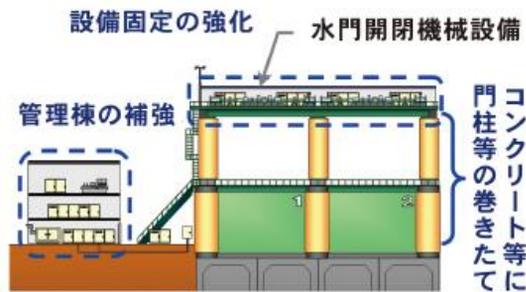
新たな耐震対策事業計画の策定

東京都では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機として、平成24年12月に「東部低地帯の河川施設整備計画」(以下、計画第一期という)を策定し、堤防や水門等の耐震対策を実施してきました。

令和3年12月には、津波等による浸水を防止するとともに、地震後に発生する高潮に備えることを目的とし、計画第一期に引き続く「東部低地帯の河川施設整備計画(第二期)」(以下、計画第二期という)を新たに策定しました。



堤防の対策イメージ



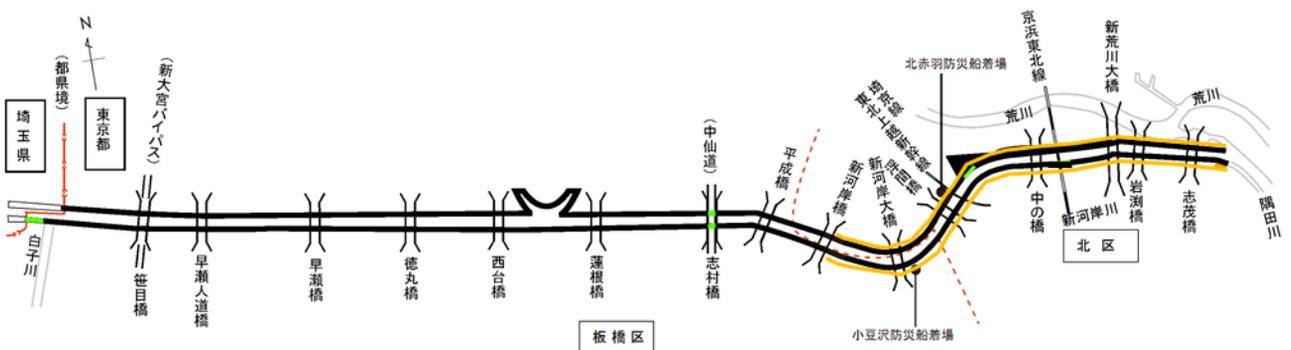
水門の対策イメージ

変更内容

耐震対策範囲の拡大

将来にわたって考えられる最大級の強さをもつ地震に対して防潮堤の機能を保持し、津波等による浸水を防ぐために、防潮堤の耐震性を確保していきます。

計画第一期では、地盤高が満潮位や想定津波高より低い地域を対象として対策を実施しました。計画第二期では、これまでの対策範囲に加え、地盤高が高潮の潮位より低い地域を新たに対策の対象としました。



凡例

— 耐震対策実施区間

対策対象平面図